

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S4 #11 Top 10 Japanese Songs: Hana/ Flowers

CONTENTS

- 2 Kanji
- 3 Kana
- 4 Romanization
- 5 English
- 6 Vocabulary
- 7 Sample Sentences
- 8 Grammar

11

KANJI

1. 花
2. 今回、紹介する「日本の歌」は『花』です。日本人なら誰も一度は口ずさんだことがあるこの曲は、明るくのびのびとしたメロディー。しかし意外なことに、この曲のタイトルが『花』であることは知られていません。
3. さて、「花」という単語から、あなたはどんな花を連想しますか？ 日本で「花」というと桜。そう、この曲は春の歌なのです。
4. 舞台は、東京を流れる隅田川。川岸には桜が植えられ、3月から4月には多くの人々がお花見を楽しみます。
5. 隅田川は大きな川で、水上バスが通っていますが、昔も船で上ったり下ったりすることができました。寒い冬が去り、温かい日差しの中で船遊び...とても優雅ですね。船のオールが動くたびに水滴がキラキラと跳ね、まるで花びらが散るよう。もちろん、水面には満開の桜が映り、幻想的な美しさとなります。
6. 堤防には桜以外にも柳が植えられていて、ピンク色と緑色のコントラストが優美です。
7. 昼間の光景も素晴らしいのですが、日が暮れてぼんやりと霞むおぼろ月が昇ると、また違った趣に。情緒溢れる風景は何にも換え難い、と日本人は古来から愛してきました。
8. そんな景色を切り取って歌にしたのが、作曲者の滝廉太郎です。明治時代に活躍した彼は、日本を代表する音楽家の一人ですが、23歳という若さで惜しまれつつこの世を去っています。
9. 作詞者の武島羽衣（たけしまはごろも）は国文学者であり、詩人や歌人としての肩書きも有する人物。二人は東京音楽学校（現在の東京芸術大学）で共に教壇に立っていました。

CONT'D OVER

10. ちなみに、隅田川沿いにある浅草側の隅田公園内に、羽衣自身が書いた歌詞が石碑となっていますので、東京を旅した際に立ち寄ってみるのも良い記念になるでしょう。それが春であれば、「日本人が愛でる美」を体感できますよ。

KANA

1. はな
2. こんかい、しょうかいする「にほんのうた」は『はな』です。にほんじんならだれしもいちどはくちずさんだことがあるこのきょくは、あかるくのびのびとしたメロディー。しかしいがいなことに、このきょくのタイトルが『はな』であることは知られていません。
3. さて、「はな」というたんごから、あなたはどんなはなをれんそうしますか？ にほんで「はな」というとさくら。そう、このきょくははるのうたなのです。
4. ふたいは、とうきょうをながれるすみだがわ。かわぎしにはさくらがうえられ、さんがつからしがつにはおおくのひとびとがおはなみをたのしみます。
5. すみだがわはおおきなかわで、すいじょうバスがとおっていますが、むかしもふねでのぼったりくだったりすることができました。さむいふゆがさり、あたたかいひざしのなかでふなあそび...とてもゆうがですね。ふねのオールがうごくたびにすいてきがキラキラとはね、まるではなびらがちるよう。もちろん、みなもにはまんかいのさくらがうつり、げんそうてきなうつくしさとなります。
6. ていぼうにはさくらいがいにもやなぎがうえられていて、ピンクいろとみどりいろのコントラストがゆうびです。
7. ひるまのこうけいもすばらしいのですが、ひがくれてぼんやりとかすむおぼろづきののぼると、またちがったおもむきに。じょうちょあふれるふうけいはなににもかえがたい、と にほんじんはこらいからあいしてきました。

CONT'D OVER

8. そんなけしきをきりとってうたにしたのが、さっきよくしゃのたきれんたろうです。めいじじだいにかつやくしたかれは、にほんをだいひょうするおんがくかのひとりですが、にじゅうさんさいというわかさでおしまれつつこのよをさっています。
9. さくししゃのたけししまはごろもはこくぶんがくしゃであり、しじんやかじんとしてのかたがきもゆうするじんぶつ。ふたりはとうきょうおんがくがくこう（げんざいのとうきょうげいじゅつだいがく）でともにきょうだんにたっていました。
10. ちなみに、すみだがわぞいにあるあさくさがわのすみだこうえんないに、はごろもじしんがかいたかしがせきひとなっていますので、とうきょうをたびしたさいにたちよってみるのもよいきねんになるでしょう。それがはるであれば、「にほんじんがめでるび」をたいかんできますよ。

ROMANIZATION

1. Hana
2. Konkai, shōkai suru "Nihon no uta" wa "hana" desu. Nihonjin nara dare shimo ichi-do wa kuchizusanda koto ga aru kono kyoku wa, akaruku nobinobi to shita merodei. Shikashi igai na koto ni, kono kyoku no taitoru ga "hana" de aru koto wa shirareteimasen.
3. Sate, "hana" to iu tango kara, anata wa donna hana o rensō shimasu ka? Nihon de "hana" to iu to sakura. Sō, kono kyoku wa haru no uta na no desu.
4. Butai wa, Tōkyō o nagareru sumidagawa. Kawagishi ni wa sakura ga uerare, san-gatsu kara shi-gatsu ni wa ōku no hitobito ga o-hanami o tanoshimimasu.
5. Sumidagawa wa ōki na kawa de, suiijō basu ga tōtte imasu ga, mukashi mo fune de nobottari kudattari suru koto ga dekimashita. Samui fuyu ga sari, atatakai hizashi no naka de funāsobi... Totemo yūga desu ne. Fune no ōru ga ugoku tabi ni suiteki ga kirakira to hane, marude hanabira ga chiru yō. Mochiron, minamo ni wa mankai no sakura ga utsuri, gensōteki na utsukushisa to narimasu.

CONT'D OVER

6. Teibō ni wa sakura igai ni mo yanagi ga uerarete ite, pinkuiro to midoriro no kontorasuto ga yūbi desu.
7. Hiruma no kōkei mo subarashii no desu ga, hi ga kurete bon'yari to kasumu oborozuki ga noboru to, mata chigatta omomuki ni. Jōcho afureru fūkei wa nani ni mo kaegatai, to Nihonjin wa korai kara aishite kimashita.
8. Son'na keshiki o kiritotte uta ni shita no ga, sakkyokusha no Taki Rentarō desu. Meiji jidai ni katsuyaku shita kare wa, Nihon o daihyō suru ongakuka no hitori desu ga, ni-jū san-sai to iu wakasa de oshimare tsutsu kono yo o satte imasu.
9. Sakushisha no Takeshima Hagoromo wa kokubungakusha de ari, shijin ya kajin to shite no katagaki mo yūsuru jinbutsu. Futari wa Tōkyō Ongaku gakkō (Genzai no Tōkyō geijutsu daigaku) de tomo ni kyōdan ni tatte imashita.
10. Chinami ni, Sumidagawazoi ni aru Asakusagawa no Sumida kōen nai ni, Hagoromo jishin ga kaita kashi ga sekihi to natte imasu node, Tōkyō o tabi shita sai ni tachiyotte miru no mo ii kinen ni naru deshō. Sore ga haru de areba, "Nihonjin ga mederu bi" o taikan dekimasu yo.

ENGLISH

1. Flowers
2. The Japanese song I'd like to introduce this time is "Flowers." It's a bright, free, and easy melody that all Japanese people will have hummed to themselves at least once. But surprisingly, the fact that this song's title is "Flowers" is not widely known.
3. So when you hear the word "flower," what flower do you think of? In Japan, "flower" is equivalent to "cherry blossom." That's right; this tune is a spring song.
4. The scene is the Sumida River, which flows through Tokyo. Cherry trees line the banks, and in March and April lots of people come to enjoy cherry-blossom viewing.

CONT'D OVER

5. The Sumida River is a large river that has boats to ferry people back and forth across the water, but in the olden days boats could also go up and down the length of the river. With the passing of the cold winter, sailing on the river in the warm sunshine... How elegant, don't you think? With every movement of the boat's oars, drops of sparkling water fly, just like falling flower petals. Of course, the cherry blossoms in full bloom also reflect on the surface of the water, creating a magical beauty.
6. On the riverbank, besides cherry trees, there are also weeping willows growing, and the contrast between the pink and the green is exquisite.
7. The afternoon scene is wonderful, but when the day grows dark and dimly misty and a hazy moon rises, it takes on a different charm. This scenery, inspiring the welling up of emotion, has no equal, and Japanese people have loved it since time immemorial.
8. The person who took scenery such as this and made it into a song was the composer Rentarō Taki. Taki, who was active during the Meiji era, is one of Japan's most famous musicians but sadly departed this life at the age of just twenty-three.
9. The writer of the lyrics, Hagoromo Takeshi, was a scholar of Japanese literature and was also known as a poet and writer of classical Japanese poetry. The two men taught at the Tokyo School of Music (the present-day Tokyo University of the Arts) at the same time.
10. Incidentally, due to the fact that lyrics written by Hagoromo himself have been turned into a stone monument that is located in Sumida Park on the Asakusa side of the Sumida River, perhaps it would be a nice commemoration to visit there if you should ever come to Tokyo. If that happens to be in spring, you can also experience "the beauty loved by the Japanese."

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
教壇	きょうだん	kyōdan	teacher's platform
柳	やなぎ	yanagi	willow
連想する	れんそうする	rensō suru	to associate, to connect

水滴	すいてき	suiteki	drop of water
舞台	ぶたい	butai	stage, scene or setting (e.g., of novel, play, etc.)
石碑	せきひ	sekihi	stone monument
堤防	ていぼう	teibō	bank, levee, weir
霞	かすみ	kasumi	haze, mist
肩書き	かたがき	katagaki	business title
幻想的	げんそうてき	gensōteki	fantastic

SAMPLE SENTENCES

<p>彼は、4月から大学の教壇に立つ。 <i>Kare wa shi-gatsu kara daigaku no kyōdan ni tatsu.</i></p> <p>He is going to teach at a university from April.</p>	<p>強風で柳が倒れた。 <i>Kyōfū de yanagi ga taoreta.</i></p> <p>Strong winds blew down a willow tree.</p>
<p>日本で鳥と言ったら、すずめを連想する人が多いだろう。 <i>Nihon de tori to ittara suzume o rensō suru hito ga ōi darō.</i></p> <p>Many Japanese people think of sparrows, when they hear the word "bird."</p>	<p>水滴が頭の上に落ちてきて驚いた。 <i>Suiteki ga atama no ue ni ochite kite odorōita.</i></p> <p>I was surprised when a drop of water fell on my head.</p>
<p>舞台は2054年のワシントンDCです。 <i>Butai wa 2054-nen no washinton DC desu.</i></p> <p>The setting is Washington DC in the year 2054.</p>	<p>この岬には、ひとつだけ石碑が立っている。 <i>Kono misaki ni wa hitotsu dake sekihi ga tatte iru.</i></p> <p>This cape has one stone monument.</p>
<p>津波で堤防が決壊した。 <i>Tsunami ga teibō ga kekkai shita.</i></p> <p>The levee collapsed due to the tsunami.</p>	<p>一日中、山に霞がかかっていた。 <i>Ichinichijū yama ni kasumi ga kakatte ita.</i></p> <p>A haze hung over the hills all day long.</p>

肩書きがなくても立派な人は大勢いる。
Katagaki no nakute mo rippa na hito wa ōzei iru.

There are many prominent people who don't have
business titles.

幻想的な雰囲気を持った映画だった。
Gensōteki na fun'iki o motta eiga datta.

It was a movie that created an air of fantasy.

GRAMMAR

Natsuko: オーディオブログ第4シーズン第11課 「はな」

Yuichi: こんにちは ゆういちです

Natsuko: なつこです。今回のレッスン11課から20課では、「日本の歌」を紹介していきます。と、いっても、私たちが歌を歌ったり歌を流すわけではないんですよ。

Yuichi: そうですね。著作権の問題から、歌うことはできませんが、もし興味のある方は検索してみてください。で、このブログは上級者用のブログなので、日本で育った人なら誰でも知っている歌の文化的な背景や意味、作者や作曲家などの説明を聞いてもらいます。このオーディオブログを書ってくれた人は前のシリーズと同じ、みやちひろえ先生です。

Natsuko: 今回取り上げる歌はなんでしょうか？

Yuichi: 「はな」です。

Natsuko: では早速聞いてみましょう。

Natsuko: 今回のブログは「花」という歌についてでしたが、この歌は「春」を代表するような歌ですよ。

Yuichi: 先ほども言いましたけども、興味のある方は、是非この歌をネットで検索してみてください。

Natsuko: この歌の舞台になっている「隅田川」というのは東京都の東に位置してまして、有名な観光名所の浅草、浅草寺、雷門から、とても近いところにあります。Yuichiさんは、隅田川へは行ったことがありますか。

Yuichi: 桜の時期にですね、隅田川には行ったことがないんですけど、花火がとても有名なところですね。夏によく行ったことがあると思います。なつこさんはどうですか？

Natsuko: 私も、残念ながら桜は見たことはないんですけども、でも、あの、浅草のあたりは何度も言ったことがありますし、水上バスにも私、乗った事あります。今回のブログでも紹介してありますが、隅田川の岸には、たくさんの桜の木が植えてあります。だから、お花見のシーズンには、たくさんの人が桜を見に来て、すごく込むんですよ。

Yuichi: あーはい。桜の木下で、ピクニックしたり、まあ、あとは、先ほどなつこさんが言っていましたけれど、隅田川の水上市バスにのって桜を見物するって人もいるみたいですね。ちょっと調べたんですけども、お花見のシーズンには「夜桜見物クルーズ」として、夜桜・・・夜にライトアップされた桜を水上バスに乗って見る・・・というツアーがあるみたいですね。

Natsuko: それはなんだか、ずいぶん、ロマンティックですね。いいなあ。川から見る夜桜。優雅だなあ。

Yuichi: 先ほどからもう何度も話していますが、日本では「花」というと「桜」と書いてありました、桜は日本人には特別な「花」なんですね

Natsuko: そうなんですね。日本の「国花」、つまり「国の花」は菊なんですが、桜は第二の国の花といってもよさそうですね。ちなみに、日本の警察とか自衛隊の紋章は桜なんですよ。あと、100円玉の表つまり、100っていう数字が書いていない方、あれも、桜のデザインですね。

Yuichi: そうなんですか。いつも100円玉よく使うんですけども、気付いてなかったですね。

Natsuko: 見てみてください。

Yuichi: そんな身近な桜なんですけども、今回は桜に関するクイズを用意しました。

Natsuko: お、クイズですか？

Yuichi: では、問題です。桜は春の花ですね。では、「秋の桜」は何でしょうか。

Natsuko: 秋の桜？・・・あ、季節の「秋」という漢字と「桜」という漢字を組み合わせると、別の花の名前になるんですね。

Yuichi: そうです。これは、知っていないと答えられない問題なんですけども、リスナーの皆さんに知っている人はいますかね？

Natsuko: 結構上級者ですね。これは。じゃ、答えをお願いします。ゆういちさん。

Yuichi: 「あき」に「さくら」とかいて「コスモス」と読みます。まあ、Irregular reading ですけどね。かなり。

Natsuko: そうですね。色とか形とかが何となく桜ににているから、こういう字を当てたんですでしょうかね。

Yuichi: あーなるほど。由来まで…。じゃ、ちょっと次の問題。肉には「牛肉」とか「豚肉」とか「鳥肉」、色んなお肉がありますね。では、「桜肉」は何の肉でしょうか？

Natsuko: あー。あの実は私、この動物が大好きなので、ちょっとこの質問は困っちゃいます、すみません。

Yuichi: じゃ、この答えは当然知っているということで…。

Natsuko: そうなんです。「馬肉」つまり「馬の肉」のことですね。

Yuichi: そのとおりです。居酒屋なんかで、メニューや看板に「桜肉」なんて書いてあることがありますからね、なので、なつこさんのように、馬が大好きな人っていうのは、間違っって食べてしまわないためにも、是非覚えておいてください。

Natsuko: ということで、今回のレッスンのトピックは「花」という歌でした。残念ながら著作権の関係で、ポッドキャストでは歌詞やメロディーを今回ご紹介できないんですけども、是非、ネットで検索してこの歌を聴いてみてください。

Yuichi: その歌をききながら、春の隅田川を散歩してみるのも、楽しいかと思います。

Natsuko: 素晴らしいですね。リスナーの皆さんの国には、「春」をイメージした歌はありますか？それはどんな曲でしょう？是非教えてください。それじゃ、今回はこの辺で。

Yuichi: さようなら。